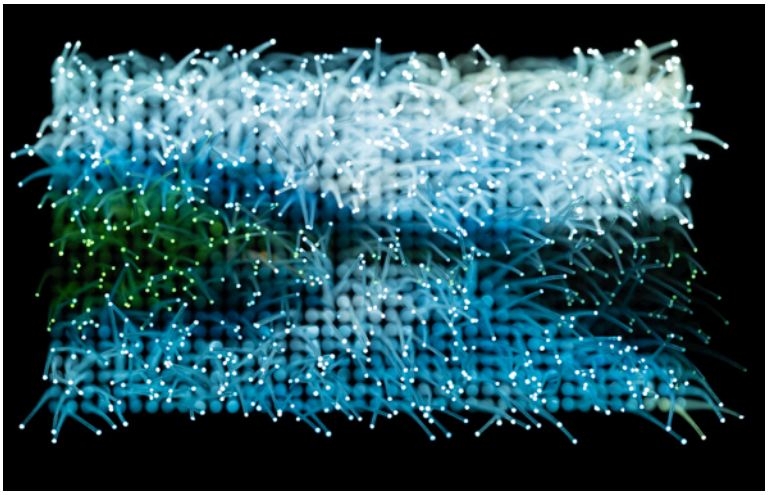

山本 涉
光解体

《光解体 “photography”》, 2021© Wataru Yamamoto, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

会期：2022 年 1 月 22 日（土）- 2 月 26 日（土）
会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#206
営業時間: 12:00-18:00　定休日: 日、月、祝日
***オープニングレセプションは開催致しません。**

【ご来廊時のご協力につきまして】
*発熱、頭痛、咳、呼吸困難、倦怠感、嗅覚味覚異常など体調のすぐれないお客様はご来廊をお控えいただくようお願い致します。
*マスクのご着用をお願い致します。またご来廊時には入口にて手指のアルコール消毒と、非接触型体温計による検温にご協力いただくようお願いしております。
*万が一関係者などから新型コロナウイルス感染症の発症があった場合、連絡を差し上げられるよう、ご連絡先の記入をお願い致します。
*大人数でのご来廊はなるべくお控えください。
*混雑が発生した場合は、入場制限をすることがございますのでご了承ください。

ギャラリーでの換気のため、常時ドアと窓を開放しております。スタッフは毎日必ず検温を含む健康チェックを行い、手洗い、消毒液による殺菌をこまめに行なっております。予防対策として、マスクを着用し、ご対応させていただく場合がございます。
今後も会期等が変更になる可能性がございます。弊廊ウェブサイト、twitter を随時更新してまいりますので、ご確認の上ご来廊いただけましたら幸いです。

2022年1月22日(土)よりYumiko Chiba Associates viewing room shinjukuにて、山本渉の個展「光解体」を開催致します。

山本渉（1986 年生）の個展「光解体」を開催いたします。山本は、「プラタナスの観察」「線を引く」「春/啓蟄」「しみ そめ しわ」「欲望の形／Desired Forms (2012-2017)」など、一貫して写真というメディアを用いながらも、シリーズごとに異なる、独自の制作手法を開発することで、発表を続けてきました。弊廊で 6 回目となる今展は、「光解体」と題し、光ファイバーを用いたインスタレーションと、それをもとに撮影した写真作品で構成されます。

山本は、植物に高周波・高電圧をかけ、その放電による発光を捉えた「プラタナスの観察」や、水とカラーフィルムを用いて太陽熱の温度変化を撮影する「春/啓蟄」、紫外線に感光する液体に浸した布に生じた表面の変化を記録する「しみ そめ しわ」など、これまでも写真の成立条件であり、根源でもある、太陽光線や感光作用を、多角的な方法を通して捉えようとしてきました。

本展で山本が展開するのは、従来のような自然の光ではなく、人工的な光ファイバーを用いた作品群です。物理的な光の通行路であり、ネット環境において膨大な情報の交通を可能にする高速通信網となる、情報環境を含めた現代社会における「光」とは、情報伝搬の速度を示すものであると同時に、物理的な光のケーブルであり、また、ディスプレイやモニターが発する光でもあるでしょう。このような「光」の諸相から、情報、画像、映像、写真の境界がきわめて曖昧になった現代社会における「イメージ」とは何かを問いかける山本の新作個展にぜひご注目ください。

■アーティストステートメント

「光解体」という文字が目に飛び込んできた。解体業社のようだが光学的な解体技術を持っているわけではなかった。
その字面に妙に惹かれ、光を解体することについて考えはじめたのがこの制作のきっかけとなった。

光解体の実現は私にとっての希望である。それが光そのものを経験する手段のように思えたからだ。
写真というよりも映像(image)へ、映像よりも光へ。数年前からより根源的なものを欲する自分の感覚に気づいていたが、
その光を捉えようとすればするほど映像になり、写真になっていくジレンマを抱えていた。
そんな折に光を捉えるための媒介として「発見」したものが光ファイバーである。
本展は光ファイバーを用いたインスタレーションとその一部を撮影した写真作品によって構成される。
光ファイバーは透明な光の道であり、世界中に張り巡らされた高速通信網である。
ネット環境は光に溢れている。その光を見るために、ネットを通じてスマートフォンの画面に表示された動画コンテンツを解体する。
さらにそのインスタレーションを写真で記録することによって、動画の内容を静止画として抽象化する。
結果として表れるのは写真か映像か光か。それともその間か。

この２年間、自然光よりもモニターの光を見ることが多かった。
光と映像の境界が生活レベルで曖昧になった経験をこの展示の場に再現し、
私たちを包む光の形を見てみたい。

山本 渉

■アーティストプロフィール

山本 渉（Wataru Yamamoto）

1986　栃木県生まれ
2011　キヤノン写真新世紀 2011 佳作
2013　多摩美術大学大学院 博士前期課程 修了

＜主な個展＞
2018
欲望の形/Desired Forms (2012-2017), Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku（東京）
エイリアンズ, IG Photo Gallery（東京）

2016
しみ そめ しわ, Cale/Field Sewing Tokyo（東京）
夏の陽, Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku（東京）
しみ そめ しわ, Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku（東京）

2014
欲望の形 -器の濃き影-, NADiff Gallery（東京）
春 / 啓蟄, Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku（東京）

2013
プラタナスの観察, Yumiko Chiba Associates viewing room shinjukuku（東京）

線を引く Drawing a Line, photographer's gallery（東京）

2012
山本渉 展, ギャラリーANOTHER FUNCTION（東京）

＜主なグループ展＞
2017
二人展 / ライラックとアンジェリカ, Cale/Field Sewing Tokyo（東京）
T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO, 上野公園（東京）

2016
Rituals -流体の景色-, アキバタマビ 21（東京）

2015
New Japanese Photography, DOOMED GALLERY（ロンドン）
LUMIX MEETS / TOKYO 2020 BY JAPANESE PHOTOGRAPHERS #2, IMA CONCEPT STORE（東京）

2014
LUMIX MEETS / TOKYO 2020 By Japanese Photographers ＃2, Yellow Korner Paris Pompidou（パリ）
Unseen Photo Fair 2014 "Anima on Photo – Hidden sense of Japanese Photography", Westergasfabriek-Festival Ground（アムステルダム）
TOKYO2020, Christophe Guye Galerie（チューリッヒ）

2013
LIVING WITH PHOTOGRAPHY, 伊勢丹新宿店（東京）
LIMIX MEETS / TOKYO 2020　BY JAPANESE PHOTOGRAPHERS 9, 1 RUE RICHELIEU, HILLSIDE TERRACE / HILLSIDE FORUM（パリ, 東京）

2012
3331 TRANS ARTS, 3331 Arts Chiyoda（東京）

2011
キヤノン写真新世紀 2011, 東京都写真美術館（東京）

2010
126 POLAROID さよならからの出会い, 横浜美術館アートギャラリー（横浜）

＜主なアートフェア＞
2016
代官山フォトフェア, 代官山ヒルサイドフォーラム（東京）

2015
代官山フォトフェア, 代官山ヒルサイドフォーラム（東京)
アート大阪 2015　一般社団法人日本芸術写真協会の企画展「写真の力」, ホテルグランヴィア大阪（大阪）

2013
Japanese Contemporary Art Fair　“NEW CITY ART FAIR Taipei, Taiwan　2013” (台北)

＜主なコレクション＞
the amana collection

【本展に関するお問合せ】ぜひ貴社にて御紹介くださいますようお願い申し上げます。画像データの御依頼等は下記までご連絡下さい。
ユミコチバアソシエイツ　オフィス
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#205　[Tel] 03-6276-6731　[e-mail] info@ycassociates.co.jp
[website] www.ycassociates.co.jp　[営業時間] 12:00-18:00　　[定休日] 日・月・祝日